

【教育目標】

知的で、明るく、たくましく、共感力をそなえ、国家、社会に貢献できる人間力を養う。
 【グランドデザイン 80年の歴史・伝統に、新たな息吹を吹き込む「修文新時代」構想】～「不易と流行」、「統一性と多様性」のバランスをどう図るか～

- 【目標領域1】 文武両道・全人教育(人間力の育成)
- 1 学院訓「推譲・明朗・強健」人間力育成の不易の価値と位置づけ、あらゆる機会を通して、その具体化を図る
 - 2 男女共学化・新学習指導要領実施のもと、多様な生徒に対応できる「個別最適な学び」を実践する
 - 3 人生100年時代に相応しい「学びの姿勢(どう学ぶか)」を身につけ、学びの土台をつくる
 - 4 心の教育を推進し、共感力・自立心やたくましい精神力を養う
 - 5 学校を取り巻く社会の変化に対応できる資質・能力を育てる

- 【目標領域2】 教育は人なり(教師力の向上)
- 1 予習・授業・復習のサイクルを明確にした「修文メソッド」を各教科で確立し、徹底させる
 - 2 教員の授業力向上

- 【目標領域3】 地域に信頼される学校(地域連携・高大連携の充実)
- 1 地域社会に貢献し、地域の教育力を活用する
 - 2 高大連携の充実

- 【今年度の重点目標】
- 1 社会人となるための基本を身につけさせる —「あ・じ・み・そ」の徹底—
 - 2 学習に対する意欲を喚起し、学力を向上させる —学力の保証—
 - 3 進路実現の充実を図る —進路指導の充実—
 - 4 心の教育の充実・自立心を育てる —心の学校—
 - 5 防災教育を推進する —安心・安全な学校—
 - 6 地域の期待にこたえ、信頼される学校をつくる —開かれた学校—

※達成度は4段階評価
 4:大変よくできた。
 3:まあまあできた。
 2:あまりできなかった。
 1:全くできなかった。

項目	重点目標	具体的方策	留意事項	中間評価	最終評価	達成度	次年度への課題及び行動目標
普通科	基礎学力の定着と応用力の養成	・朝の徹底反復学習を継続的に実施する ・日常的に計画と振り返りを行う	・学年ごとの実施目標に見合った実施内容を実施していく。 ・ICT機器の運用頻度を高め、運用能力を高めていく。	・反復学習の継続 ・iPadの活用頻度はとても高く、多くの教科でICTを活用した学習指導が展開されている。また、連絡事項や資料の共有など、目的やタイミングに応じた利用ができるようになった。	・各学年のクラス状況に応じて国語・数学・英語の反復学習を実施した。 ・ロイノートやiPadなどを活用し、ICT機器の運用頻度や運用能力を高めた。 ・1年生ではZOOMを利用し効果的かつ効率的に探究学習やホームルーム活動を実施することができた。	3	ICT機器を活用した学習アプリの活用を更に深めていきたい。また、2年生では単語帳を使用した英単語コンテストを2回実施した。学年全体で取り組むことができ、クラスの枠を超えた学年行事としても機能した。
	視野の拡大と可能性の追求	・全国模試の受験と結果データの活用(進研模試1、2年 全統模試3年) ・普通科実力テストの実施(2学期・3学期) ・普通科補習の実施(夏・冬・春)	・模試データによる客観的数値データを授業担当者と共有する。(学科所属以外の教員にも共有する)	・昨年度より、普通科の生徒全員が進研模試を受験し、受験結果を可視化することができた。過年度比較をしながら成績推移を学習指導や進学指導に生かしていきたい。	・全国模試の校内資料を作成し、進路指導資料、懇談資料として活用した。 ・普通科進学補習(夏季休暇中15日・冬季休暇中4日)を実施した。特進クラスは全員参加。進学クラスは希望者が参加した。普通科実力テスト(国数英)を年間2回実施した。(2学期・3学期)	4	担任と授業担当者、進路課および教務課との連携を密にし、円滑かつ効果的に学習進路指導を進めていきたい。また、普通科としての学科の特色を学習指導面で深めていきたい。
	難関大への挑戦	・難関大志望者集団の育成 ・進路ガイダンスの実施と進路情報の発信 ・教師、生徒(保護者)の意識改革	・理数教育の充実を図るとともに文理選択や志望校選びに対する体系的指導を構築する。	・国立大学、難関私立大学志望者の集団を作っていくたい。 ・1年生では文理選択に関わるホームルーム活動をクラスで実施し、生徒が適切な進路選択ができるように導いていきたい。	・1年部では、2年次の文理選択に関するガイダンスをZOOMを活用して実施した。クラスを横断し、学年で統一した指導ができた。 ・3Sプロジェクト(国公立・難関私立大学合格プロジェクト)をスタートし、2年生で個別学習指導を開始した。1年生は2月に募集を開始し、3月より取り組みをスタートする。	3	学科全体の大学進学への意識を高めたい。また、難関大学への合格を目指す高い進学意識を持った集団作りにも力を入れていきたい。
	人間力の育成	・普通科「学びの特色化」 修文メソッド+ICT(学び方)+探究(考え方)+SDGs(社会との関わり方) ・「自走生徒」の育成 目標とする10の学習者像(教室掲示) ・規律、規範等、生活指導の徹底	・学力のみならず、主体性・協調性・振り返る力を育てていながら、互いの違いが尊重でき、個人の権利と責任、人種・文化の多様性の価値など、社会の中で円滑な人間関係を維持できる力を育む。	・普通科で学ぶ生徒が目指す10の学習者像を決め、クラス内に掲示している。「自走」できる生徒の育成を合言葉に人間力を育てていきたい。	昨年に引き続き、普通科生徒が目標とする「10の学習者像」を設定し、全HR教室に掲示した。個人一人ひとりの個性を尊重しつつも、互いを尊重できる集団作りを心がけていきたい。	2	クラス内の人間関係で悩む生徒も増加傾向にある。今年度に引き続き、普通科生徒が目指す10の学習者像を意識し、学力と人間力を高めていきたい。また、生徒の遅刻や欠席を減らすよう生活指導にも注力したい。
情報会計科	積極的な資格取得と納得のいく進路実現	・夏季補習、検定直前補習、朝補習の充実 ・緻密な進路指導 ・個人面談の充実	・組織的な検定補習によって、卒業時に全員が技術顕彰の受領を目指す。 ・進学希望者には、個人面談を実施するとともに、資格を利用した推薦制度の紹介をする。 ・就職希望者には、個人面談や面接練習等を実施し、きめ細やかな指導をする。	・おおよ3年生の79%の生徒が技術顕彰の受領をすることができた。 ・3年生の進学者・就職者の指導については、学科で担当者を割り振りし、組織的に取組んだ。 ・充実した個人面談を行い、悩みや問題の早期発見・早期対応に努めることができた。	・卒業生の96%の生徒が技術顕彰の受領をすることができた。 ・どの学年においても検定取得に向けて、積極的に取組むことができた。 ・ほとんどの3年生が、納得のいく進路選択ができた。就職者が一社目全員内定は特筆に値する。 ・充実した個人面談を行い、悩みや問題の早期発見・早期対応に努めることができた。	3	・次年度は、全員の技術顕彰受領を目指したい。 ・次年度においても、積極的な検定取得に取組ませたい。 ・次年度においても、納得のいく進路選択ができるような指導をしたい。 ・次年度においても、個人面談を充実させ、きめ細やかな指導をしたい。
	社会人基礎力の育成とICT教育の充実	・報連相の徹底 ・凡事徹底(挨拶・時間・身だしなみ・掃除) ・ICT教育の充実と活用	・報連相を徹底することで、コミュニケーション能力の伸長を図る。 ・挨拶、時間、身だしなみ、掃除等の凡事徹底を通して、社会人基礎力を身につけさせる。 ・ICT機器やクラウドを活用し、最先端のICT教育を推進する。	・社会人に求められるコミュニケーション能力に力点を置いて日頃から指導を実施し、一定の成果を得ることができた。 ・1・2年生の商業の授業においては、iPadやロイノートを活用した授業展開を実施し、一定の成果を得ることができた。	・あらゆる事柄の指導において、報連相や凡事徹底を心がけたことで社会人基礎力が身についた。 ・1・2年生の商業の授業においては、iPadやロイノートを活用した授業展開を実施し、一定の成果を得ることができた。	2	・社会人基礎力は、どの時代においても求められる不易の部分であるので、引き続き目標として掲げ指導していきたい。 ・ICT教育は、現代において求められる流行の部分であるので、引き続き目標として掲げ指導していきたい。
家政科	専門教科の技術の習得	・個人面談の実施 ・家政科スローガンの実現 ・作品完成までのプロセスの重視	・積極的に個人面談を実施し、生徒の動向を把握する。 ・家政科スローガン『か(垣根を越えた交流)せ(責任ある言動)い(今を大切に)か(輝く自分になる)』を意識させ、人間的成長を促す。 ・1年次から、提出期限を意識した作品製作に取組ませ、3年次のファッションショーに向けての基礎を培う。 ・ファッションショーを意識し、美しい立ち振る舞いができるようにする。	・朝の反復学習の時間を利用し、1年生は並縫いや折り紙の練習、2・3年生は手芸や被服の課題に取組み、常に提出期限を意識して製作することができた。 ・ファッションショーを意識した授業開始・終了時の挨拶ができるよう取組んだ。	・2年生は、提出期限を常に意識して課題製作に取組み、学年末審査前までにすべての作品を提出することができた。現在、来年度のファッションショーに向け、準備を進めている。 ・引き続き、ファッションショーを意識した授業開始・終了時の挨拶ができるよう取組んだ。	3	・今年度同様、生徒の学習状況をきめ細かく把握し、指導していきたい。 ・引き続き、朝の反復や家庭学習でも作品製作にかけられる時間を確保し、家庭科科目の知識や技術の習得を目指す。

項目	重点目標	具体的方策	留意事項	中間評価	最終評価	達成度	次年度への課題及び行動目標
	幼・大との連携と地域行事への積極的参加	<ul style="list-style-type: none"> ・系列大学や系列幼稚園との連携 ・地域との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学施設の利用や大学教授の講義等、大学の資産を積極的に活用する。 ・授業で学んだ内容を幼稚園実習等で実践し、保育分野への興味関心を高める。 ・地域社会のイベントに積極的に参加させ、地域における役割について意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短期大学の先生方による授業「音楽・リズム表現、造形表現」を受講し、家庭科検定合格に向けて取り組むことができた。 ・地域からの要請により、ファッションショーに参加することで、地域とのつながりについて考えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や講義等、系列大学との連携を1年間通して行うことができた。また、幼稚園にも実習に出かけ、保育分野への関心を高めることができた。 ・多くの地域イベントに積極的に参加することができた。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・大学との連携を、幼児教育学部以外にも広げていけるよう、考えていきたい。 ・次年度も地域のイベントには積極的に参加していきたい。
食物調理科	調理技術と知識の習得	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、礼儀、時間厳守など基本的な生活習慣の徹底 ・衛生管理の徹底 ・個人面談の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・「整理」、「整頓」、「清掃」、「清潔」、「躰」を意識した指導をする。 ・授業後に調理の練習ができるように、調理実習室を開放する。 ・生徒の変化を見逃さず、問題の早期発見早期解決を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業後に技術力向上のために、調理実習室を開放し、練習する場を提供することができた。 ・テスト中にロッカーの点検をし、衛生管理に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週身だしなみのチェックをしたが、衛→生管理を意識した指導の徹底に苦慮した。 ・定期的に個人面談は実施したが、学校に足が向かない生徒への指導が大変であった。 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・個人面談を充実させ、保護者との連携を密に取っていきたい。 ・調理実習室にモニターが設置され、学びの環境が向上したので、確実な技術力を身に付けさせたい。

項目	重点目標	具体的方策	留意事項	中間評価	最終評価	達成度	次年度への課題及び行動目標
食物調理科	地域に根づく学科	・地域活性化事業への参加 ・地元企業との商品共同開発	・積極的に地域への広報活動を実施する。 ・企業の方と打ち合わせができるように、コミュニケーション能力の伸長を図る。	・おもてなしモーニングcaféに参加し、メニュー考案から販売まで生徒が積極的に参加することができた。 ・セントレアと名古屋エアータリングと共同企画で生徒が考案した『夢の機内食』を、2月にセントレアで行われる航空ファンミーティングで販売する予定である。	・航空ファンミーティングでは2日間とも完売することができた。 ・地域に根づく学科をめざし、地元企業と連携することができた。	4	・外部との連携企画は長期間に渡って準備するため、対応できる組織を作っていたい。 ・卒業生が就職した企業と連携できるように働きかけたい。
総務課	防災教育・安全教育の推進	・防災教育の推進、防災マニュアルの周知徹底	・危機を予防するために、安全点検・防災訓練・教員研修を実施し、安全に行動できる知識や能力を育成する。	・4月に避難訓練、9月にシェイクアウト訓練、10月に防災講話(1年生対象)を行った。 ・今後も安全点検を定期的に行い、迅速に修理改善に努める。	・生徒は、防災についての訓練・講話を行い、防災や安全教育の推進を図った。月末の安全点検を行い、修理改善に努めたが、危機管理体制の徹底がまだまだ十分とは言えない。	3	・教職員、生徒ともに、校内の安全対策、災害への防災意識を高め、安全行動が的確に行える危機管理体制を構築する。
	P T A や同窓会組織の充実	・P T A 活動の主体的な取組みへの支援 ・同窓会活動の充実やネットワークづくり	・校務支援システム(B L E N D)やホームページを通して取組みを紹介し、協力連携を図り、P T A や同窓会の活動を主体的・活発的に行うため、提案や支援をする。	・今年度は5月にPTA総会を行い、PTA活動を始動した。文化祭PTAバザーは3年ぶりに実施、その後の研修旅行等PTA行事は、順調に行われた。 ・同窓会総会は5月に行い、研修旅行も実施された。	・PTA活動は、文化祭でのリサイクルバザー、研修旅行、評議員会、卒業式の役員参加が行われた。 ・同窓会報第2号の発行を令和6年4月に定め、準備をすすめた。	4	・PTA行事を増やしたり、創立100周年に向けて同窓会組織の基礎固めをしたりして活動を充実させていく。
教務課	生徒の学力向上	・基礎学力の定着と応用力の養成	・徹底反復学習にしっかり取組ませ、到達度テストでの運動課題配信を促し、基礎学力の定着を図る。 ・模擬試験や検定を積極的に受験させ、入試に対応できる能力を身につけさせる。	・基礎学力定着に向けた教員・生徒の意識の向上が個々の学力定着につながっている。	・朝の徹底反復学習では各学科の特色を生かした内容で実施した。また、全学年対象の到達度テストでの運動課題に期日までにほぼ全員が完了した。	4	スタディサブリの活用法を充実させ、到達度テストの事前・事後指導を行う。また、基礎学力の留まることなく実力の養成に力を注ぐ。
		・英語教育と理数教育の充実	・授業以外にオンライン英会話、語学研修を通し興味関心を抱かせ、英語力向上を図る。 ・教員、施設、設備を充実させ、理数教育を強化する。	・普通科は月一のオンライン英会話を実施し、8月にはハワイ語学研修も実施した。 ・新理科室を積極的に活用することで理科教育の充実をはかった。	・オンライン英会話や語学研修、4年ぶりの海外修学旅行を実施することで、英語を活用・運用する環境を構築できた。 ・理数教育は主に授業を中心としてのみの実施であった。	3	・環境や行事を充実させるだけでなく、意欲向上そして実力養成につなげていく。
	教員の授業力向上	・授業規律の確立と授業力の向上	・始業や終業のけじめと挨拶を徹底する。 ・ICTの授業を取入れ、アダプティブな対応で生徒の学習効果の向上に努める。	・全教室にプロジェクターを設置したことで、黒板に投影しながらの授業が増えた。1・2年生は一人一台タブレットが整い、スタディサブリやロイロノートの活用率が高まっている。	・朝8:30着席はほぼできていたが昼の13:15着席は教員の呼びかけが必要であった。チャイムと同時に授業開始も昨年よりは改善された。	3	・率先垂範の姿勢で臨み、教員として大切な研究と修業に努める。
	図書館の利用促進	・読書環境の整備	・良質な読書環境を整備する。 ・図書館を授業、特別活動等で計画的に利用し、生徒の主体的・意欲的な学習活動や読書活動の充実を図る。	・図書委員会だより:Lメールは3号まで発行し、図書委員の推薦図書や新着図書を紹介した。 ・国語科、家庭科、普通科1・2年の授業で図書館利用があった。	・図書委員会だよりは7号まで発行した。 ・国語科、家庭科、普通科1・2年生は年間を通じて授業での利用があった。 ・昼放課や部活動後の利用者は増加した。 ・図書館改修工事のため後期図書委員会の活動ができなかった。	3	・生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実させるために、改修工事後の図書館準備を進めていきたい。
生徒課	・時代背景、男女共学化に伴う校則の見直し	・校則の見直し	・生徒会と連携を図りながら進めていく。生徒から上がってくる意見に耳を傾け、実現可能なものかどうか慎重に審議していく。	・生徒会からの意見を参考に靴下の規定変更を実施した。	・生徒会の意見を取り入れ靴下規定の変更を実施したが、生徒会自身が規定を守らせるという意識が低く、あいまいになっていることが見られた。	3	・生徒会との連携を図り、慎重に見直しを図りたい。生徒自身がルールを決め、守っていくという意識を高めさせたい。
	・部活動の見直し及び活動場所の調整	・人数の増加に伴う部活動の見直し及び活動場所の調整	・活動場所の調整及び、外部施設の確保、移動手段の確保を進める。 ・部活動の統廃合も進めていく。	・限りある活動場所を分担して実施できている。	・バスが4台になり移動手段は確保できつつあるが、来年度は硬式野球部、サッカー部の人数も増えるため、活動場所に限界を感じている。部活動の統廃合は進めることができていない。	3	・活動場所、顧問、部員数に鑑み、統廃合も進めていきたい。
	・生徒主体となる委員会活動、学校行事	・企画段階から生徒の意見を取り入れる	・教員主体となっている学校行事、委員会活動を、生徒主体のものに移行していく。	・生徒の意見を取り入れることができていない現状である。	・教員主体の学校行事からの脱却はほとんどできていない。	1	・可能な限り生徒の意見を取り入れ、生徒主体の学校行事に移行していきたい。
進路課	・国公立大を含めた難関私大への挑戦	・進路検討会を活用し、進路面談の充実を図る。 ・学科の特徴を活かし、多様な入試制度に対応させる。	・個々の指導方法を検討し、本人にしっかり理解させる。 ・普通科のみならず専門学科からの挑戦を促す。	・進路検討会を開催できず担任指導に頼る状況にある。 ・生徒面談を密に個々の適正に応じた入試方法を担任より助言している。	・担任団的確な助言もあり、国公立大1名を含め、多くの地元私大合格に検討できた。	2	・適切な時期に学年、学科に合わせた進路検討の機会を設定する。 ・進路希望調査を定期的に行い生徒の動向を調べる確かな進路指導に繋げる。
	・進路意識を明確にする行事の充実	・補習、模試等へ積極的に参加させ、結果の分析および各教科と情報の共有をする。	・日々の学習同様に模試対策や結果の振り返りをさせ、各教科と情報を共有し学力定着の徹底を図る。 ・外部講師による進路説明会や就職説明会に参加させる。	・過去問を利用し模試対策は実施されている。また担任による模試の事前・事後指導がなされてきた。 ・業者に頼る進路行事にとどまってしまうている。	・模試を利用した指導の流れが確立し、生徒指導に活かされてきた。 ・各行事について準備、周知等が遅れた。次年度への反省をしたい。	2	・模試結果を各教科で共有しながらその後の指導に繋げる。 ・開催方法を工夫しながら進路に合わせた説明会・講演会を保護者も含めて開催する。
	・地元企業への就職内定	・就職希望者に対する就労感を育成し就職試験対策	・インターンシップへの参加や校内における就職試験対策の講座を充実させる。	・夏休みを利用したインターンシップは多くの生徒が参加し就労感の育成に繋がった。	・就職希望者全員が早期の段階において希望の職種、業種に就くことができた。 ・次年度に向け、地元大手事業所にも積極的な働きかけを行い、保護者への周知もできた。	4	・希望者増加が見込まれる3年生就職希望者には早めの情報提供等を心掛けていく。1、2年生にはインターンシップへの参加を積極的に促す。
広報課	情報発信と広報活動の充実	・ホームページ、SNS、学校案内といった広報活動を通して、本校の魅力を継続的に発信する	・ホームページ、SNS、学校案内等、より一層見やすく魅力的なものにしていく。 ・学校説明会、入試説明会等の内容をより一層拡充し、本校の魅力を発信する。	・昨年度実績をもとにInstagramに特化した情報発信を実施した。 ・昨年度実績をもとに部活動体験を2日間開催した。	・Instagramでは部活動ごとにInstagramを立ち上げ、魅力的な情報発信ができた。 ・学校説明会や入試説明会等で本校の魅力を十分発信することができた。	4	・より一層見やすく魅力的なホームページにするため学内外問わず多くの意見を取り入れ、改善したい。